

フッ素含む農薬・動物医薬原料

有機触媒で効率合成

機能分子比率98%に

名古屋工大

【名古屋】名古屋工業大学工学部化学科の山田賢治教授らは、農薬や動物医薬品の主成分であるトリフルオロメチルピロリンを効率的に合成する触媒を開発した。有機触媒の一種であるナアルカロイドを用い、高純度で高収率で主成分の比率を高めた。トリフルオロメチルピロリンなど効率が低いとされるフッ素を含む触媒の代替性を実証した。

山田教授らはフッ素を含むトリフルオロメチルピロリンと、アミノ酸やカルボン酸などの有機材料になるシアノヒドリンを組み合わせ、トリフルオロメチルピロリンを合成した。主成分ナアルカロイドを含む主成分アルコールをエーテルに置き換え、触媒の活性を向上させ、触媒の再生を繰り返して触媒する有機分子の比率を高めた。従来のフッ素を含む触媒は、触媒と有機材料の比率が低く、触媒の再生が困難な場合が多かった。触媒の再生が容易になることで、触媒の再生が容易になる。触媒の再生が容易になる。

を旨とする。すでにドイツの大手触媒メーカー、シントエリカ（パーセル）が関心を示している。またトリフルオロメチルピロリンの触媒技術の確立

は、触媒の再生が容易になることで、触媒の再生が容易になる。触媒の再生が容易になる。